

留学報告書

アリゾナ大学植物科学科
種田 修三

さてさて今回の報告書は南アフリカとナミビアでの植物のサンプリング旅行について。3年前にパナマから始まったこの研究プロジェクトもついに最終目的地まで来た。これまでのサンプリングは最大でも3週間弱という期間であったが、今回は約40日間という長旅であった。

アリゾナ州ツーソンから飛行機を乗り継ぎ、約30時間かけて辿り着いたその土地はサバンナであった。我々が訪れたサバンナが位置するクルーガー国立公園は、南アフリカではサファリで有名な場所である。そのため、今回の植物採集は危険生物との遭遇に備えてライフルを持ったレンジャーとともに行動しなければならなかった。サバンナでの危険な生物はなにもライオンやハイエナなどの肉食獣だけでなく、遭遇して最も危ないのは意外にも獐猛なカバや、気性の荒いブラックマンバと呼ばれる毒蛇なのだ。とはいえ車での移動中は心配はいらないので、サンプリング地点までの道のりではゾウやキリン、サイを見ることができ、楽しいサファリであった(写真1)。しかしサンプリング地点に到着すると皆サファリの興奮を車に忘れてきたかのように静かになる。なぜなら車から一歩出るとサファリでハントされるのは我々だからだ。レンジャーがいるとはいえ、百獣の王と呼ばれるようなタレント兼アスリートが我々のグループにいるわけではない。私を含めたグループ全員が先頭を歩きたがらない、レンジャーのそばから離れようとしないう、キョロキョロとせわしなく見回すというように、危険生物への恐怖が顕著に行動に表れていた。しかし残念ながら幸運ながらも、ライオン等の肉食獣や毒蛇はどれだけ探しても見つからなかった。

南アフリカというと上記のようなサバンナばかりを想像する方も多いと思うが、実際は全くそうではない。我々のような植物や菌の研究者にとってはむしろサバンナはおまけで、本題は別のところにある。喜望峰を有するケープタウン近郊は、多様な環境が小さな地域に密集しているため、非常に高い植物多様性と固有性を持つフィンボスと呼ばれる植生を有している。主に背の低い灌木からなるこの植生は、世界自然遺産にも登録されている。特に有名なのは、南アフリカの国花にも指定されているヤマモガシ科のプロテアと呼ばれる植物である。この植物の特徴は直径20cmもあろうかという大きく美しい花だ(写真2)。今回の旅ではこれらの花を見ることができ、しっかりとサンプリングもさせていただいた。

南アフリカでもう一つ誤解しがちなこと、それはペンギンが見られることである。ペンギンと聞くと南米や南極を想像する方も多いだろう。しかし、南アフリカではケープタウンの中心地から車でわずか30分の場所で、野生のケープペンギンを見ることができ。我々も道すがらこの土地を訪れた。そこでは遊歩道が敷かれ、ペンギンを間近で見ることができた(写真3)。私は高校生の頃、漠然とペンギンの研究がしたいと考えていた時期もあったため、初めて野生のペンギンを見ることができたいへん感動した。しかし、このグループはなんと言っても植物や菌を研究している方々のため、ペンギンと

のご対面はわずか15分足らずで終了し、すぐに次のサンプリング地点へと旅立つのであった。

南アフリカで1ヶ月間過ごした後、その北に隣接するナミビア共和国にも訪れた。ここナミビアのナミブ砂漠には、植物学者の夢とも言われる植物が存在しているためだ。その名も奇想天外（学名からウェルウィッチアとも呼ばれる。写真4）。このもこもこした植物の何がそんなにすごいのか、それはその生態、進化的背景、そして限られた生息域にある。この奇想天外は1000年以上長生きするとも言われ、しかもその一生でわずか2枚しか葉を付けない。この2枚の葉をひたすら伸ばし続けるのだ。また、このような外見をしているにも関わらず、進化的背景としてはマツやスギ等に代表される裸子植物というグループに属する。さらに奇想天外は世界中でもこのナミブ砂漠近辺にのみ生息しており、これらが植物学者の夢と言われる所以である。世界中の植物をサンプリングしている我々がこの植物を採集しない理由などないのだ。

終わりに

なにはともあれ、これですべてのサンプリング旅行はおしまい。右も左もわからないうちに始まったパナマから3年、苦しくも楽しくもあった日々だったが、このプロジェクト、そしてこのグループは本当に素晴らしいと思っている。元々農業に興味があり野生の植物種や自然の植生等はほとんどわからない状態の私を暖かく迎え入れてくれただけでなく、世界中の植生を肌で感じ、分野の世界最先端に行く研究者達のサンプリングや研究に対する姿勢を学ぶことができたのは研究者として育つ中で本当に有益な経験であった。森をかき分ける能力も十分についた（パナマでの留学報告書参照）。これらの経験を私の研究や自身のキャリアゴールに昇華させていくのが私の役割なのだろう。また、サンプリングで集めたデータを論文として発表していく作業が残っており、これからはこちらに全力を尽くす所存である。研究資金を獲得できれば、次の旅行は北極圏でのサンプリングというが、、、。私はこのあたりでお暇させていただくことにしよう、私がかき分ける森もないだろうし。



写真1（左上）：
車の前を通るサイ。

写真2（右上）：
プロテアの花。
直径20cmほどある。



写真3（左下）：
ケープタウンで見た
ペンギンの親子。

写真4（右下）：
奇想天外の個体
高さ約50cm、
長辺約1.5m。